

実践記録

108

シリーズ



わりばしてっぽうづくり

「さんぽくこども広場」

～週末の子どもの居場所づくり～

1 はじめに

山北町教育委員会では、週末の子どもの居場所づくり事業として、毎週土曜日に山北町民会館の一室をフリースペースとして開放する取り組みを以前から行ってきた。

平成17年度から実施している「さんぽくこども広場」では、これまでの体制を改め町青少年健全育成町民会議会員20名が実行委員となり、地域子ども教室推進事業の再委託を受け活動を行っている。

当初、事業内容の検討時に、「放課後の小学校教室を利用して実施しては…」という意見も挙がったが、町内の交通事情や地理的な条件を考慮して、町公民館がある山北町民会館を会場に、土曜日をメインに活動を実施している。

2. 「さんぽくこども広場」とは…?

(1)ねらい

活動を始めるにあたり、

- ①子どもが気軽に参加できる各種の体験活動をきっかけとする子どもの居場所づくりの拡充
 - ②町内の小・中学生と地域の大人との異年齢交流ができる場の提供
 - ③「おはようございます」「さようなら」等の基本的な挨拶や、活動後の片付けなどのモラルの定着
- この3点を大きな目標とした。

(2)活動内容

毎週土曜日の午前9:30～11:30、町内の小・中学生と保護者を対象に、主に山北町民会館の一室にて活動を実施している。(基本的に9:00～16:00の間はフリースペースとして利用が可能である)

具体的な内容としては、

- ・折り紙、手芸、工作などのものづくり
- ・将棋、百人一首、オセロ、トランプなどの昔あそびやゲーム
- ・おかしづくり教室
- ・アウトドア料理、つり体験などの野外活動

等を町内から募集した子ども広場指導員(元児童館職員、学童保育指導員など)が中心となり、プログラムの計画と指導をしている。また、月1回チラシを作成し、町内小・中学校に配付している。

子どもの参加状況としては、活動内容によりばらつきがあるが、小学生低・中学年を中心に毎週15人程度の参加がある。

なお、指導員体制は現在5名で、活動の内容や参加者の見込み数に応じて交代で指導にあっている。

3. まとめ

(1)参加した子どもの声

「一番楽しかったのは手芸です。むずかしいと思うこ

山北町教育委員会教育課 生涯学習係 係長 齋藤真理子

ともあるけれど、できあがったときにとてもうれしかったからです。こんどはもっとむずかしいものを作りたいなと思いました。」

「こども広場は50点が最高だとすると30点です。私が一番楽しかったのはキャンドルサービスです。来年もキャンドルサービスをしたいです。」

(2)大人の視点から

- ・活動には意欲があり、自主的に参加する子どもが大半を占めている。活動を通じて、お互いの名前や挨拶を交わせる関係を自然と構築することができた。
- ・活動終了後におしゃべりや遊びにさそわれ、子どもの普段の様子が見えるようになった。
- ・子どもとの交流以外にも、子どもに同伴する大人や地域の大人と指導員同士のコミュニケーションが図られるようになった。

(3)問題点とこれからの課題

来年度以降の取り組みに向けて、以下の3つが大きな事柄として挙げられる

- ・地域には少しずつではあるが活動への取り組みが周知されつつあるので、今後も今以上に口コミを利用して、地域の大人が自然と広場で子どもとふれあうことができる環境づくりをする。
- ・小学校の学区が2つに対して開催場所が1会場のため、参加する子どもが固定化されつつある。今後、各集落等の遠隔地に出張しての活動を視野に入れたプログラムづくりを行う。
- ・活動の分野が偏らず魅力的なプログラムづくりのために、他のグループやサークル等と手を結び、指導員として協力してもらう人的なネットワークづくりを目指す。



折り紙づくり

現在、来年度の活動に向けての指導員を充実するため、現在の指導員の他に、町体育指導員や、読み聞かせボランティアとの連携したプログラムづくりを検討している。

まだまだ、成果として目に見えてくるものは少ないが、地域の子どものみん家の家族であると言えるように、子どもと地域の大人がお互いを身近に感じ声を掛け合える活動をこれからも目指したい。